

令和2年度サケ来遊状況及び令和3年度サケ来遊予測

令和3年8月11日
宮城県水産技術総合センター

1 令和2(2020)年度サケ来遊状況

2020年度は河川捕獲が4万尾、沿岸漁獲が15万尾で合計19万尾(対前年度比68%)となりました。また、沿岸での水揚金額は40.9百万円(同91%)となりました(図1)。沿岸漁獲量については、全国では53,521トン※(対前年度比97%)、宮城県では457トン(同69%)となりました。

※ 国立研究開発法人 水産研究・教育機構調べ

来遊数(千尾) 金額(百万円)

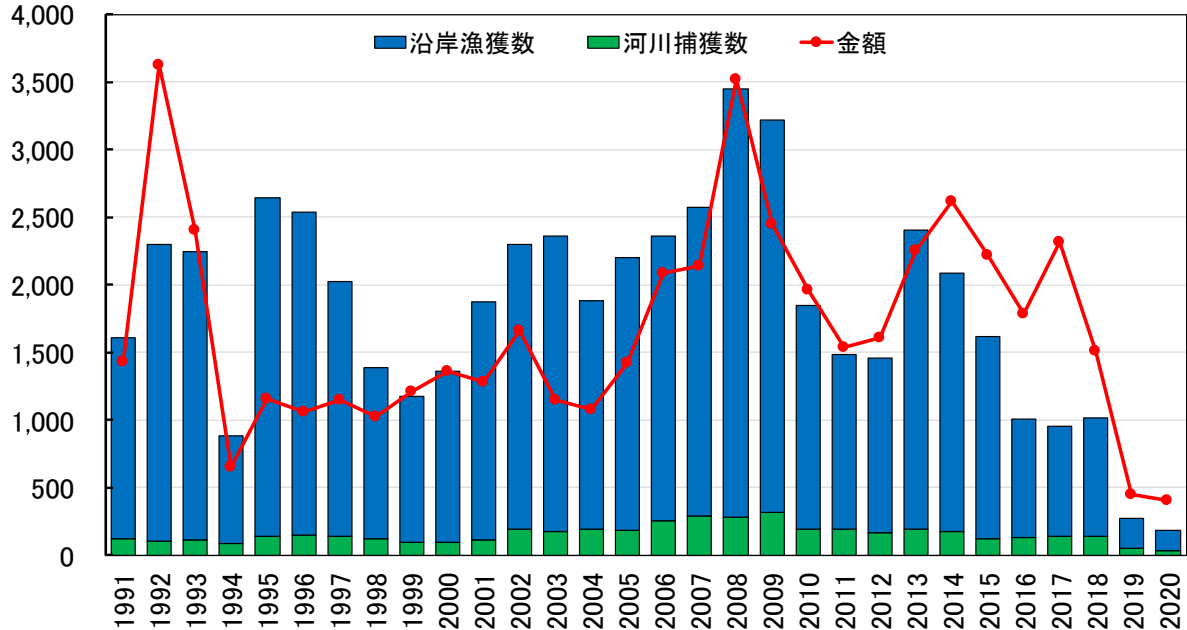


図1. 宮城県のサケ来遊数・水揚金額の推移

本県へ来遊したサケを年齢別にみると、例年、4年魚と5年魚の割合が高い傾向にありますが、2020年度は4年魚の割合が高くなり、全体の79%を占めました(図2)。年齢別の内訳では、4年魚が15万尾(対前年度比242%)、次いで3年魚が2万尾(同23%)、5年魚が1万尾(同8%)、6年魚が5千尾(同467%)、2年魚が3百尾(同4%)となりました。

来遊数(千尾)

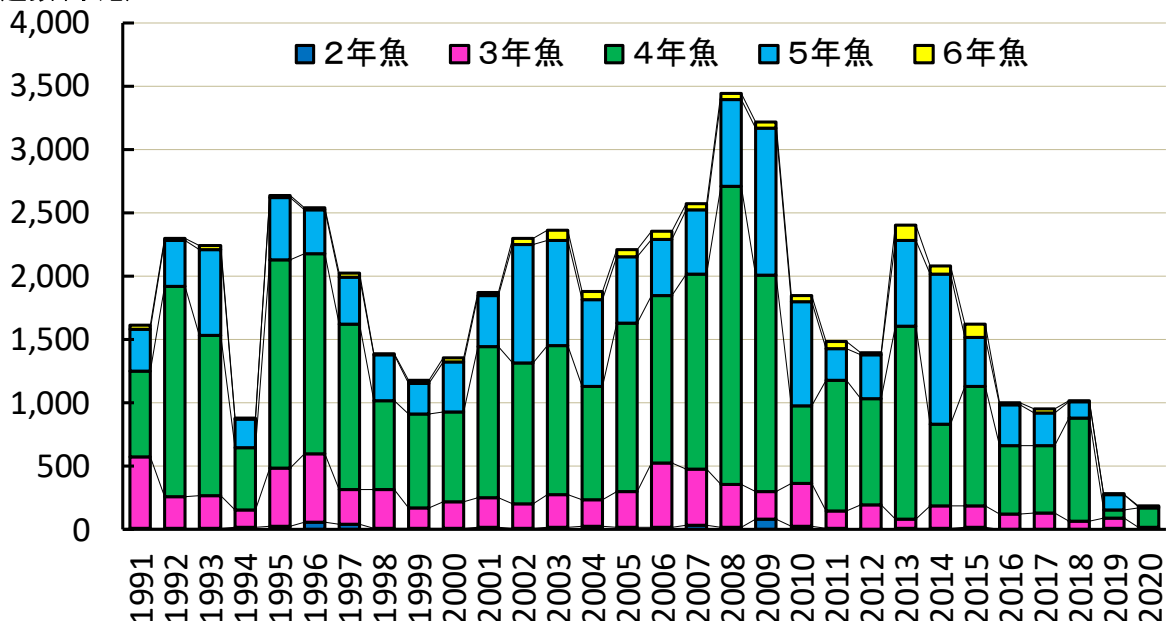


図2. 宮城県のサケ年齢別来遊数の推移

2 令和3(2021)年度サケ来遊予測

宮城県では2014年度から、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所（旧東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター）と共同で「宮城県沿岸における秋さけ来遊数の予測手法の高度化」研究を実施してきました。この共同研究により、我が国周辺水域の漁業資源評価で、多くの魚種系群に用いられているコホート解析（資源量推定手法）をサケ来遊数の予測に応用した結果、2021年度は、41万尾（30～52万尾の範囲となる確率が約70%）と予測しました（図3）。

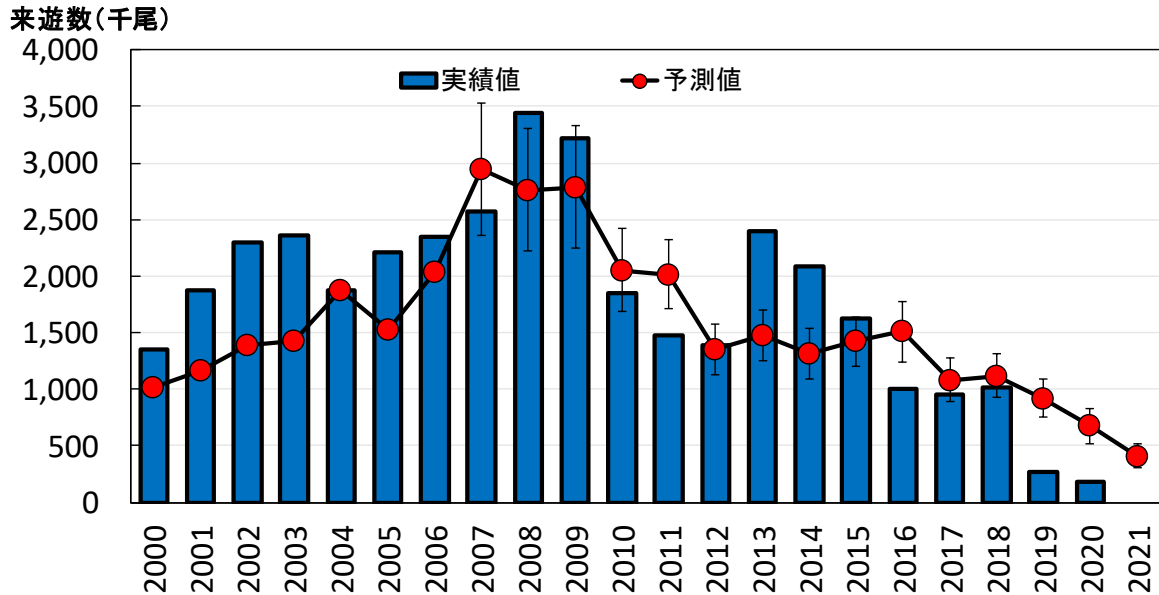


図3. コホート解析による来遊予測値と来遊実績値の推移

2021年度予測値：来遊数41万尾（30～52万尾の範囲となる確率が約70%）

図中のバーは推定誤差を示す。推定誤差は成熟率の分散を用いてシミュレーションにより推定した。

2021年度の予測値41万尾は、2020年度の実績値より高くなっています。しかし、昨年度（2020年度）の3年魚と4年魚の来遊が低水準であり、稚魚の放流年が同じ今年度（2021年度）の4年魚と5年魚の来遊も低水準になると考えられることから、今年度来遊数は予測値を下回る可能性があります。このように、今年度来遊数は低水準と予測されますので、引き続き来遊状況を注視するとともに、計画的な種卵確保と健苗の育成が重要になると考えられます。

* 本県のサケ来遊は秋季の沿岸海況にも影響を受けます。海況の予測については、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所（旧東北区水産研究所）が今後、発表する情報等を参考にしてください。

東北区海況情報 <https://ocean.fra.go.jp/predict/index-j.html>